

防犯設備士制度のパンフレットが完成

防犯設備士とはどのような資格で、どういった分野でどのように活用されているのかを中心に、活躍の場の事例なども解説したパンフレットが完成したので、概要をお知らせします。

防犯設備士の役割や資格を紹介する際にご利用いただけますようお願いいたします。

パンフレットが必要な方は、日本防犯設備協会までご連絡ください。

【収録内容】全体で8ページ

- 1.防犯設備士とは
- 2.主な業務領域
- 3.資格の活用内容、職種、年齢
- 4.制度のあゆみ
- 5.資格を取得するには
- 6.総合防犯設備士とは
- 7-1.活躍の場(地域)
 - 事例1:防犯アドバイザー制度
 - 事例2:防犯優良住宅認定制度
- 7-2.活躍の場(企業)
 - 事例1:三菱電機株式会社様
 - 事例2:美和ロック株式会社様
 - 事例3:株式会社セノン様

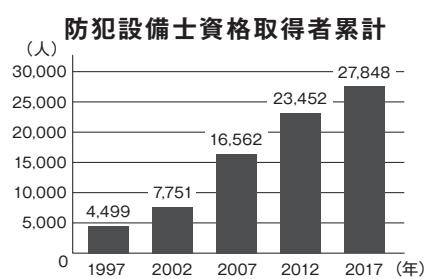


【以下、収録内容から抜粋】

1. 防犯設備士とは

防犯設備士制度は、防犯設備に関する専門的な知識・技能に基づき、防犯診断、防犯設備の設計、施工及び維持管理に関する業務を行える者を育成する目的で1992年に開始しました。防犯設備士は警察や自治体などの関係機関・団体と連携しながら「防犯のプロフェッショナル」として活躍し、地域の防犯対策や安全安心なまちづくりに大きな役割を担っています。**2016年からは資格更新を開始し、犯罪手口や防犯設備の最新動向を得られるようになり、社会的信頼性が一段と高まりました。**

また、各地域での活動拠点として都道府県に地域協会が設立され、「地域に根ざした安全安心」のための様々な活動を警察や自治体、諸団体と連携して行っています。

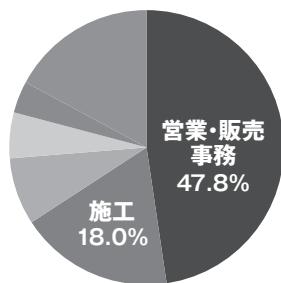


3. 資格の活用内容、職種、年齢

各分野で活躍している幅広い職種、年代の方が資格を取得しています。取得した資格は、営業活動、防犯設備の開発・設計・施工、防犯診断などの実務に有効で、社員の基礎教育としても活用されています。

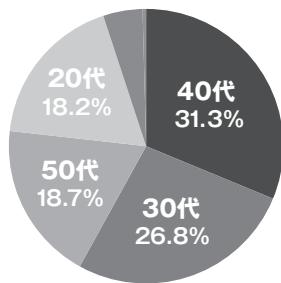
また、自治体で防犯設備を調達する際の入札仕様書に「施工、調整及び保守点検については、防犯設備士または総合防犯設備士の有資格者が行うこと。」と記載されるようになってきています。

職種



- 営業・販売・事務 47.8%
- 施工 18.0%
- 保守・維持管理 7.7%
- 開発・設計 5.6%
- 警備 3.6%
- その他 17.3%
(企画・コンサルティング)
(製造・検査)
(団体役員・経営者)

年齢



- 40代 31.3%
- 30代 26.8%
- 50代 18.7%
- 20代 18.2%
- 60代以上 4.7%
- 10代 0.3%

※資格試験受験者アンケートによる

7-1. 活躍の場(地域)

各都道府県での具体的な防犯活動は拠点パートナーである地域協会で行っています。
(地域協会の設置状況は裏表紙を参照してください。)

【事例1】防犯アドバイザー制度*

各地の警察・地域協会等は、地域住民の防犯意識の啓発・高揚や具体的・実践的な防犯知識の普及を目的として防犯アドバイザー制度を実施しており、防犯設備士、総合防犯設備士などが防犯アドバイザーの委嘱を受け、防犯講習、防犯診断、防犯相談、防犯機器展示等で活躍しています。

*「防犯アドバイザー」は各地で呼び方が異なります。



防犯講習



防犯講習 (ガラス割り)

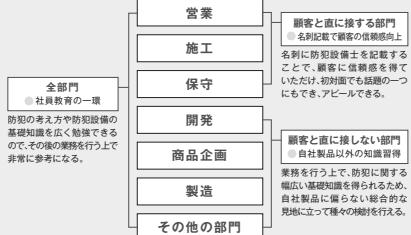


商店街の防犯診断

7-2. 活躍の場(企業)

社員教育の一環、顧客の信頼感向上などに効果的に活用されていて、受講費用負担や手当等で受講促進している企業もあります。

各部門ごとの活用例



● 防犯設備士養成講習及び防犯設備士資格認定試験

①	日程 金曜日と 土曜日の 2日間	養成講習 ※養成講習受講は必須	第1日目 終日
		資格認定試験	第2日目 午後
②	場所	毎回実施: 東京・大阪 その他: 札幌・仙台・名古屋・広島・福岡等	
③	実施回数	年4回	
④	講義	3科目の講義を受講	